

欧州発の円安・株高も無視できない

2012年12月5日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

15:53 現在

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	9468.84 円	▲36.38 円
TOPIX	781.86 pt	▲0.11 pt
NYダウ	12,951.78 ^{ドル}	▲13.82 ^{ドル}
DAX (独)	7,435.12 ^{ドル}	▲0.09 ^{ドル}
FT100 (英)	5,869.04 pt	▲2.2 pt
CAC (仏)	3,580.48 pt	▲13.89 pt
上海総合※	2,033.36 pt	▲58.217 pt

<外国為替>※

ドル円	82.27 円	▲0.41 円
ユーロ円	107.85 円	▲0.62 円
ドルユーロ	1.3109 ^{ドル}	▲0.002 ^{ドル}

<長期金利>

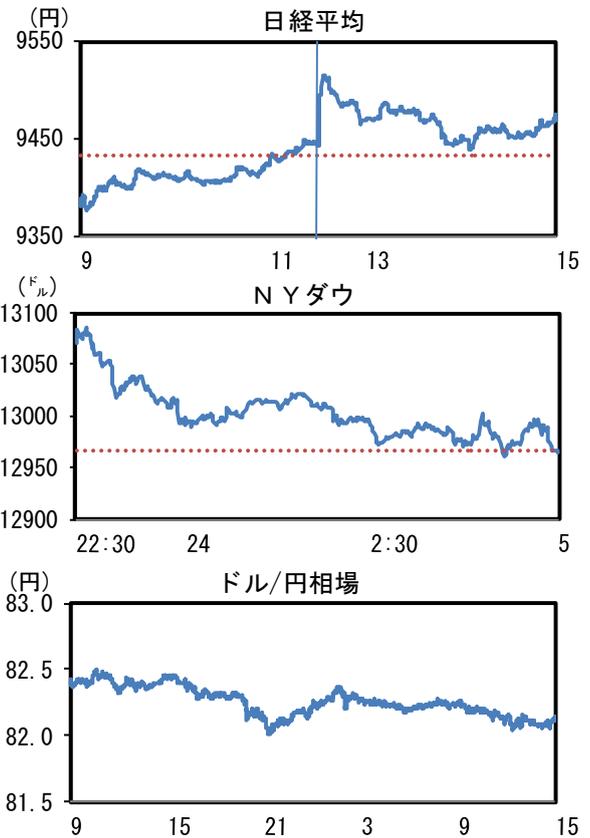
日本※	0.710 %	
アメリカ	1.603 %	▲0.018 %
イギリス	1.810 %	▲0.011 %
ドイツ	1.394 %	▲0.015 %
フランス	2.033 %	▲0.019 %
イタリア	4.425 %	▲0.025 %
スペイン	5.251 %	▲0.002 %
オーストラリア	3.178 %	▲0.035 %

<商品>

NY原油	88.50 ^{ドル}	▲0.59 ^{ドル}
NY金	1694.40 ^{ドル}	▲25.20 ^{ドル}

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



【海外株式市場】

4日の米国株式市場、NYダウ平均株価は小幅続落。前日比▲13.82^{ドル}の12951.78^{ドル}で取引を終了。重要な米経済指標の公表が無い中、「財政の崖」を巡る議論に進展がみられなかった事が嫌気された。

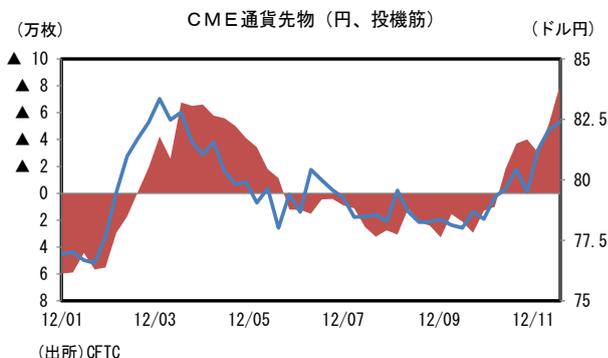
オバマ大統領（民主党）が富裕層の所得税率引き上げを改めて主張し、富裕層税増を含まない共和党の提案を「バランスを欠いている」として拒否した。オバマ大統領から「合意できる可能性はある」との発言もあったが、市場の反応は冷ややかで投資家心理の改善には繋がらなかった。

先行きについては、今週末に発表される雇用統計がハリケーン「サンディ」の影響もあり弱い内容となる可能性が高く、目先、投資家心理を一気に好転させるような好材料は見当たらない。一方で、底堅い米経済指標を背景に一方向的に売り込む材料も無い。よって、「財政の崖」の不透明感が払拭されるまでは、やや弱気ムードの中で一喜一憂の展開となろう。

【外国為替相場・債券市場】

4-5日の外国為替市場では、ユーロがドルに対して買われる展開となった。対ドルでのユーロ高は営業日ベースで5日連続。ギリシャの財政再建を巡る問題が解決に向けて進展していることが引き続きユーロ買いの材料となっている。欧州債市場では、イタリア・スペイン国債の利回りが連日で低下。他方、ドル円相場は「財政の崖」に対する不透明感から米金利が低下、日米金利差縮小が意識され円が買われた。投機筋の円売りがピークを付けたの見方も多く、円売りポジションを手仕舞う投資家が多かったと推察される。

5日の日本時間では、西村日銀副総裁が追加緩和に含みを持たせる発言をしたこと等から、一転して円が売られる展開となった。

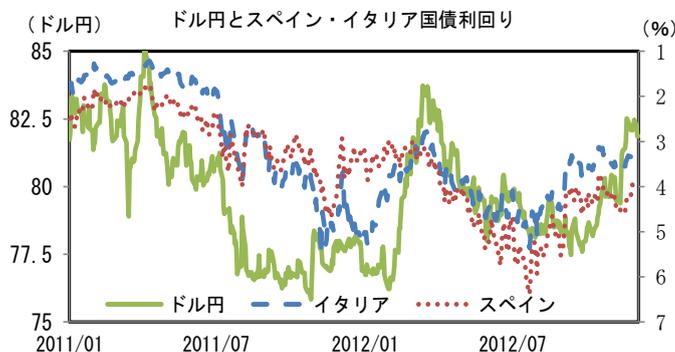


【国内株式市場】

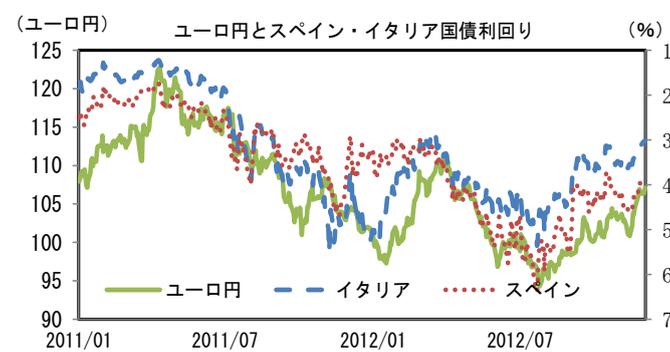
5日の東京株式市場、日経平均株価は反発。前日比+36.38円の9468.84円で取引を終了。「財政の崖」を巡る議論に進捗がみられないことに加えて、海外時間に進んだ為替円高が重石となり安く寄付いた後、日本時間に進んだ為替円安や中国株の急伸が好感され上昇に転じた。日経平均株価は、後場寄り付き直後に9500円を一時回復するも、短期的な過熱感を警戒する動きから一段高には至らず。騰落レシオが約113（前日ベース）と過熱感の目安となる120に近づきつつある他、25日移動平均線（約9100円）からの乖離率（3.9%程度）も意識されたとみられる。積極的に上値を追うには、米株高など外部環境の改善が必要であろう。

【注目点】

11月中旬からの円安は「日銀がより大胆な金融緩和を強いられるとの思惑から円が売られた」と説明されている。所謂「安倍トレード」である。この動きとは別に、もう一つの円安要因として無視できないのが欧州情勢の落ち着きである。スペイン・イタリア国債利回りを欧州情勢の緊張度合いと解釈するならば、その低下は安全資産としての円需要低下をもたらす。両国債の対独債スプレッドと円相場を比較してみると、欧州情勢の落ち着きがユーロ円はともかく、ドル円にも波及していることが示唆される。欧州問題の落ち着きを背景に、グローバルなリスクマネーが安全資産としてのドルや円に逃避する構図が変化の兆しをみせている可能性がある。楽観は禁物だが、欧州情勢が今後も小康状態を保てば、安全資産としての円需要は趨勢的に低下していくものと思われる。



（備考）Bloombergにより作成。両国債の対独債スプレッド。



（備考）Bloombergにより作成。両国債の対独債スプレッド。

【NYダウ・日経平均株価予想レンジ（5営業日以内）】

NYダウ 12750~13250^{ドル} 日経平均株価 9250~9650円

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。